どうやら遊戯王のようです

マカロフ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
どうやら遊戯王のようです

【Ｎコード】
Ｎ２２１４Ｚ

【作者名】
マカロフ

【あらすじ】
「初めまして。俺の名前は喜多見健斗です。現在１５歳。突然ですが、俺は転生者です。」ある世界で死んだ主人公は、どうやら遊戯王の世界に転生した様です。※ＧＸなのにシンクロ、ドローが強い、など見苦しい点があります。それでも構わないという方は、どうか温かく見守ってください。

どうやら転生したようです

皆さん始めまして。俺の名前は喜多見健斗です。現在１５歳。
突然ですが、俺は転生者です。そして、ここからが重要なんですが、
どうやらここは遊戯王ＧＸの世界らしいです。
アニメ見ておけばよかった～

俺が遊戯王の世界に転生したとわかったのは、俺が１０歳になった時、唐突にわかった。
というより、１０歳になった時に、前世の記憶、死んだときのこと、神なんてものが実在したという事実、その神に遊戯王ＧＸの世界に送られたこと、そんな過去のことを一気に思い出したのだ。
どうでもいいが、あまりの情報量に、頭が痛くなり気絶してしまった。
せっかくの誕生日だったというのに。
まあ、神が転生日プレゼントとして、俺が死ぬときに持ってたカードをこっちの世界に送ってくれたから、そんなのぜんぜん気にならないほど嬉しかったからいいんだけどね。
気がついたときは嬉しさのあまり叫んで、両親に頭痛のショックでくるってしまったんじゃないと、本気で心配されたのは余談だ。

俺は、前世ではかなり遊戯王に熱中していた。
大学生になってもカードショップに行っては、デュエルしていた。

大会で優勝したこともある。
死んだときも、カードショップに行く途中だったしね。
そのせいか、神が転生先に選んだのが遊戯王ＧＸの世界だったというわけだ。
ここでひとつだけ問題がある。
それはズバリ、俺は遊戯王のアニメ、特にＧＸに関してはほとんど知らない。
神から少し話を聞いたが、
「主人公が遊戯じゃない、だと？」
と、素で言ってしまうほどに壊滅的に知らない。
だから、もう少し詳しく知っている無印の時代にしてくれと頼んだら、
「それじゃつまらんから却下。」
なんて感じであっさりぶった切られた。畜生…神め！
それはともかく、ようするに俺はこの先何が起こるかまったくもって分からないので、今の内にできる事と言えば、デュエルの腕を磨くことと、この世界の最低限の知識を身に着けるだけしかない。
ぶっちゃけると暇なのだ。

神の話によると、今は原作の５年前らしい。
「準備できる時間、５年くらいあげるから、がんばってね。」
なんて言ってたのだから間違いない。
今思えば、準備に５年もいらないだろなんてことは明白だったのに…。
神にとっての準備期間長ッ！！
やっぱり死んだ直後だったせいで、冷静に判断出来なかったんだろうな。

その言葉を聞いた直後には俺は転生を果たしていた。

冒頭に戻って現在１５歳。
そう、あらから5年たったのだ。
つまり、やっと、待ちに待った原作開始の日なのだ！！

一言だけ言わせて欲しい。

……長かった！！
ひじょ～～～～に長かった！！
勢いで二言言ってしまうほどに長く、厳しい戦いだった！！

考えても見てくれ。
前世では一応それなりの大学に通っていた一般大学生だった人間が、
突然小学生になってみろ。
授業はつまらな過ぎるは、周りは訳の分からん年頃のやつらでいっぱいだはで、それはもう本当につらかった。
中学はまだマシだったが、やはり精神的にくるものがあった。

だがしかし、そんな日々ともようやくお別れなのだ！！
5年の間にこの世界にデュエルアカデミアというデュエル好きの俺にはたまらない学校があることを知った俺は、即座にここの試験を受けることを決めた。
そして明日がその試験である。

さあ行くぜ！！俺のターン！！

どうやら転生したようです（後書き）

初めまして。マカロフです。
よろしくお願いします。

どうやら試験のようです

「次、試験番号１７番、喜多見健斗」

やっと俺の番が回ってきた。
さっきから待ち遠しくて仕方がなかったんだ。
んっ？何がそんなに待ち遠しいかって？そんなの簡単だ。
ソリットヴィジョンに決まっているだろう！？
今まで色んなモンスターが出てきたり、色んな魔法が使われたり、
色んな罠が発動するのを見てきたんだ。
それを自分のデッキでやれる番が来たんだ。
これを喜ばずして、何がデュエルリストか！！

返事をして、指定された位置に立ち、デュエル開始の合図を待つ。

「１７番、準備はいいか？」
「はい、問題ありません。いつでも大丈夫です。」
「よし。では、ただいまより、試験を開始する。」

番号だけだと囚人みたいだな。そんなことはどうでもいい。
ようやく始まる。
よし、気合入れていこう。
互いに構えて…

「「デュエル！！」」

デュエルスタートだ！！

健斗　　ＬＰ：４０００
試験官　ＬＰ：４０００

「先攻、後攻、好きなほうを選べ」

先攻後攻の選択権は受験生である俺にあるようだ。
だったら先攻をもらうことにしよう

「では、先攻をもらいます。俺のターン、ドロー！！」

俺の手札はこうなっている。
＊『魔轟神グリムロ』
＊『魔導雑貨商人』
＊『レベル・スティーラー』
＊『グローアップバルブ』
＊『くず鉄のかかし』
＊『魔轟神獣チャワ』

まあこんなもんだろう。
見てもらえば分かるとは思うが、俺のデッキは魔轟神デッキである。
型の多様性に富んでいるのが特徴の魔轟神だが、俺の使っている型は雑貨型魔轟だ。
何でこの型にしたかというと、この世界では、やたらと攻撃してくる傾向がある。
それを雑貨やライコウで墓地を肥やして、一気に攻める。

「俺は、モンスターを裏側守備表示でセット！さらに、カードを一枚セットしてターンエンド！」

セットしたのは当然雑貨である。

「私のターン、ドロー！手札から、ゴブリン突撃部隊を召還！ゴブリン突撃部隊にメテオストライクを装備！バトル！ゴブリン突撃部隊で攻撃！」

『ゴブリン突撃部隊』ＡＴＫ２３００　ＤＥＦ０　ＬＶ４

うーん、喰らっても別に問題ないが、あんまり喰らうと成績さげられそうだしなぁ…。

「リバースカッドオープン！『くず鉄のかかし』！このカードはフィールド上のモンスター一体を選択して発動する。選択したモンスターを裏側守備表示にする！」

「ちっ！防がれたか！だが、『ゴブリン突撃部隊』は攻撃表示のまま残る！なら、カードを一枚セットしてターンエンドだ。」

雑貨商人はレベル１だからレベル調整にも使えるし、残しておいて損はない。

「俺のターン、ドロー！」

引いたカードは『魔轟神クルス』。

やっと魔轟神らしい手札になってきた。

「俺は、セットされていた『魔導雑貨商人』を反転召喚！このとき、『魔導雑貨商人』の効果発動！デッキから魔法、または罠が出るま

でめくり、手札に加え、めくったカードを墓地に送る！」

『魔導雑貨商人』ＡＴＫ２００　ＤＥＦ７００　ＬＶ１

さあ何が落ちるか。

「自分からデッキを捨てていくとは、バカなことをする」

おいおい、何でデッキが墓地に行く＝悪いことになってんだよ。
まあ、そのせいで油断してくれるんだったら何も言わないけどね～。

墓地に行ったのは
『ハンターライコウ、魔轟神レイヴン、、ジャンクシンクロン、魔轟神クシャノ、レベル・スティーラー』だ。
なかなかいい感じに落ちたな。
しかも手札加わったのは『サイクロン』だ。
試験官の伏せカードは恐らく攻撃反応型罠カードだろう。
なら、今の内に破壊しておこう。
違っても損はないしな。

「俺は手札に『サイクロン』を加え、そのまま発動する！」
「くっ！『爆発反応装甲（リアクティブ・アーマー）』が破壊されたか！」

やっぱり攻撃反応型罠カードだったな。
さあ、ここからが本領発揮だ。

「俺は、墓地の『魔轟神クシャノ』の効果発動！手札の『魔轟神クルス』を捨てて、手札に加える！このとき、『魔轟神クルス』の効果発動！このカードが手札から捨てられたとき、墓地の『魔轟神』と名のついたレベル４以下のモンスター一体を特殊召喚する！来い

！『魔轟神レイヴン』！！」

『魔轟神レイヴン』ＡＴＫ１３００　ＤＥＦ１０００　ＬＶ２

「なにっ！？手札を一枚も減らさずに特殊召喚だと！？しかし私の場には『ゴブリン突撃部隊』がいる！」

いやいや、まだ通常召喚もしてないんだが…。

回りも少しざわついている。

そんな驚くことでもないだろうに…。

「さらに俺は、手札の魔轟神グリムロの効果発動！自分フィールド上に、『魔轟神』と名のついたモンスターが存在するとき、手札から墓地に送ることで、デッキから、『魔轟神グリムロ』以外の『魔轟神』と名のついたモンスター一体を手札に加える！俺は、『魔轟神ソルキウス』を手札に加える！

さらに、フィールドの『魔轟神レイヴン』の効果発動！一ターンに一度、手札を任意の枚数捨てることが出来る！その後、このモンスターの攻撃力は、エンドフェイズ時まで、捨てた枚数×４００ポイントアップし、レベルも×１アップする！

俺は手札を一枚捨てる。これにより、『魔轟神レイヴン』は攻撃力１７００、レベルは３になる！

さらに、墓地の『魔轟神ソルキウス』の効果発動！手札を二枚墓地へ送ることで、墓地から特殊召喚する！現れろ！『魔轟神ソルキウス』！！」

『魔轟神レイヴン』ＡＴＫ１３００→１７００　ＬＶ２→３

『魔轟神ソルキウス』ＡＴＫ２２００　ＤＥＦ２１００

「また特殊召喚だと！？だが攻撃力は２２００！そっちの方が下だ

！」

そんなこと分かってますから落ち着きましょうよ。
ここからがシンクロを多用する魔轟神の本領なんだからさ。

「それぐらい分かってますよ。続けていきますよ？墓地の『レベル・スティーラー』の効果発動！『魔轟神ソルキウス』のレベルを１つ下げて、墓地から特殊召喚！」

『レベル・スティーラー』ＡＴＫ６００　ＤＥＦ０　ＬＶ１

「そしてレベル３の『魔轟神レイブン』にレベル５の『魔轟神ソルキウス』、レベル１の『レベル・スティーラー』をチューニング！！」

「チューニングだと！？なんなんだそれは？」

えっ！？知らないの！？
俺はてっきりシンクロはＧＸの時代から導入されるもんだとばかり思っていたんだが…。
事実、無印時代のときは、デュエルにシンクロは使ったことはなかった。
このデュエルで５年ぶりだったのだから。
やっぱりアニメを見ておくべきだった…。
しかしシンクロしてしまったものはしょうがない。
このまま突っ切ってやる！！

「古の封印をとき、最古にして最強の龍よ、今こそ、その力を現せ！　シンクロ召喚！覚醒せよ！『氷結界の龍　トリシューラ』！！」

『氷結界の龍　トリシューラ』ＡＴＫ２７００　ＤＥＦ２０００

ＬＶ９

うん、ヤバい。
何がヤバいか。
それはだな……ソリットヴィジョンヤベ～！！
なんだこのトリシューラかっこよすぎんだろ、おい！
すげ～すげ～すげ～すげ～すげ～すｇ…

おっと、あまりのかっこよさにトリップしかけた。
あぶねぇ、あぶねぇ。

「こ、攻撃力２７００…。くっだがこの程度なら問題ない。」

勝手に進まないでください。
トリシューラをただの２７００のモンスターにしないでください。
これからが重要なんですよ。

「ちょっと気が早いですよ～。『氷結界の龍　トリシューラ』の効果発動！このカードのシンクロ召喚に成功したとき、相手の手札・フィールド・墓地のカードをそれぞれ一枚ずつゲームから除外することができる！」
「な、なんだその反則じみた効果は！？」
「まあ確かに反則気味ですが、効果は受けてもらいますよ。墓地の『爆裂反応装甲（リアクティブ・アーマー）』、フィールドの『ゴブリン突撃部隊』、手札をランダムに一枚除外します！」
「くっ、私のフィールドががら空きになってしまった…」

やっぱトリシューラ最高だな。
強いし、かっこいいし、価値高いし。

「じゃあ終わりにしましょうか。墓地の『レベル・スティーラー』の効果発動！『氷結界の龍　トリシューラ』のレベルを２つ下げる！『レベル・スティーラー』を２体特殊召喚！
『レベル・スティーラー』２体でダイレクトアタック！さらに『氷結界の龍　トリシューラ』でダイレクトアタック！止めだ！『魔導雑貨商人』でダイレクトアタック！！」
「ぐあああああぁっ！！」

試験官　ＬＰ４０００→２８００→１００→０

よし！！止めを雑貨商人でさすところまで完璧だったな。
一度やってみたかったんだよね、雑貨商人で止め。
やられた方はたまったもんじゃないだろうけどね。
なにせ今やられた試験官は何かもえつきてるしね。

「はっ！い、いかん、いかん。これで試験は終了だ。合否は後日連絡する。……落ちるとは考えられないがな。とにかく、いいデュエルだった。シンクロ召喚とやらも見れたしな。」
「はい。ありがとうございました。」

確かに、あれで落ちるはずはないだろう。
しかしシンクロ召喚が知られていないとは思わなかった。
デッキを変える必要が出て来るかもしれないな。
まあ、試験会場で派手に使っちまった時点で、気にしてもしょうがないんだけどね。
なるようになるだろう。

どうやら試験のようです（後書き）

うーん…難しい。
遊戯王って書かないと伝わらないこと多いですからね…。
これからもがんばるので、よろしくお願いします。

どうやら主人公のようです

「うわ～、デュエルアカデミアでっけ～。あの島丸ごとが学園とか、無駄にでかいな。無駄に。」
「ほんとでっかいよな～。く～、どんなデュエルが出来るかわくわくするぜ！！着いたら早速デュエルしような！！」
「だが断わる。」
「なんでだよ～？デュエルしようぜ、デュエル！」
「だが断わる。そして寝る。」

誰かこいつをどうにかして下さい。

試験から二週間がたった。
無事に合格の通知が来た俺は、ヘリの中。
視界に入ってくるのは一つの島。
そう、俺は間もなくデュエルアカデミアに到着するのだ！！

ついに、ついにデュエルアカデミアに着くぜ！！
楽しみすぎてこの二週間ぜんぜん寝れてないぜ！！
そういえば、試験前もこんな感じで始まった気がするぜ！！
それはともかく、そろそろ瞼が重いんだぜ！！

寮に着いたら早速寝てやるんだぜ！！
隣のやつが何かほざいてるけどそんなの知ったこっちゃないんだぜ！！

にしてもしつこいな、こいつ…。
俺は眠いんだ！！
お前とデュエルしてる余裕はない！！
頼むから放っておいてくれ！！

「なあ～、やろうぜ、デュエル！」
「……あ～もう、わかったよ、やりばいいんだろ？やれば！？」
「おっしゃ、そーこなくっちゃな！！」
「はあ……。」
「よしっ！そうと決まれば、降りたらすぐデュエルだ！！」

結局根負けしてしまった…。
どうやらこいつは、シンクロ召喚を使う俺となんとしてもデュエルがしたかったらしい。
くそっ！こんなところでシンクロ召喚を使った弊害が出るなんて…。
してなければ、周りの視線を集めることもなく、こいつに目を付けられることなく、今頃ぐっすりだったはずなのになぁ～。
はあ～、欝だ…。

「準備できたか？それじゃ、早速はじめようぜ！」

「準備できてない。始めない。寮に行って寝る。」
「なっ、おい！さっきわかったって言っただろ！？」
「やっぱ無理。眠い。死にそう。」
「そりゃないぜ！」

知ったことか。
俺は寮に行って寝てやるんだ！

「なんだ？デュエル始まるのか？」
「いや、なんかデュエル挑まれたやつが逃げようとしてるらしい。」
…絶対に寝てやるんだ。

「なんだよ、つまんねーの。…ってあいつ、例の試験でシンクロ召喚とかなんとかっていうの、使ったやつじゃねぇか！？」
「ああ。でも逃げようとしてるっぽいぞ。」

……絶対に寝てやるんだ。

「マジか。でもなんで逃げる必要あるんだ？あれだけ強かったら負けないだろ？」
「実はインチキだったんじゃないか？」
「インチキじゃねーよ！！」
「「「「「「うわっ！？」」」」」」

うが～っ！これだけ言われて黙ってられるか！
急に叫んだ俺に周りのやつらはびっくりしているが、知ったこっちゃない！
いいだろう！やってやろうじゃないか！

「おい、デュエルやるんだろう？さっさと始めるぞ！」
「おっ、やっとやる気になったま？いいぜ！俺の準備は出来てるぜ！」
「そうか。じゃあ始めるか。いくぞ！！」

「「デュエル」」

健斗：ＬＰ４０００
？？：ＬＰ４０００

ん？そういえば名前も聞いてなかったな。

「そういえば、まだ名前を聞いてなかったな。なんていうんだ？」
「俺か？俺の名前は遊城十代だ！お前の名前は覚えてるぜ？喜多見健斗だろ？」
「ああ。それで合ってる。じゃあよろしく頼むぜ？十代？」
「おう！まかしとけ！」

「先攻は俺がもらう！俺のターン、ドロー！」

手札は悪くはないな。
＊『ライトロード　ハンターライコウ』
＊『魔轟神獣ケルベラル』
＊『サイクロン』
＊『魔轟神クルス』
＊『死者転生』
＊『レベル・スティーラー』

「俺は手札から、モンスターを裏側守備表示でセット！
さらにカードを一枚セットして、ターンエンドだ！」

「いくぜ！俺のターン、ドロー！
俺は手札から、『Ｅ－ＨＥＲＯ　スパークマン』を攻撃表示で召喚！
『Ｅ－ＨＥＲＯ　スパークマン』ＡＴＫ１６００　ＤＥＦ１４００
ＬＶ４
バトル！『Ｅ－ＨＥＲＯ　スパークマン』で攻撃！スパークフラッシュ！」
これなら問題なくライコウの効果が使えるな。
「このとき、『ライトロード　ハンターライコウ』のリバース効果発動！
相手フィールド上に存在するカード一枚を選択して破壊する！
よって俺は、『Ｅ－ＨＥＲＯ　スパークマン』を破壊する！」
「くっ、スパークマンが破壊されちまった」
「その後、デッキからカードを三枚墓地に送る！」
落ちたのは『貪欲な壺、ジャンクシンクロン、魔轟神獣チャワ』
むっ、貪欲な壺が落ちてしまったか。
「なら俺は、魔法カード、『Ｏ－オーバーソウル』を発動！
墓地の『Ｅ－ＨＥＲＯ　スパークマン』を特殊召喚！
さらにカードを二枚セットしてターンエンドだ！」
「エンドフェイズ時にリバースカードオープン！『サイクロン』！
お前の伏せカードを破壊させてもらう！」
「あっ、『ヒーローバリア』が！」
「残念だったな。これでヒーローを守る壁もなくなったな！
俺のターンだ！ドロー！」

ドローしたカードはトラゴエディア。
悪くはないな。

「俺は手札から『死者転生』を発動！
手札の『魔轟神獣ケルベラル』を捨てて、墓地の『ジャンクシンクロン』を手札に加える！
このとき、『魔轟神獣ケルベラル』の効果発動！
このカードが手札から墓地に捨てられたとき、このカードを特殊召喚する！出でよ！『魔轟神獣ケルベラル』！」

『魔轟神獣ケルベラル』ＡＴＫ１０００　ＤＥＦ４００　ＬＶ２

「そして、今手札に加えた『ジャンク・シンクロン』を召喚！
『ジャンク・シンクロン』の効果発動！
このカードの召喚に成功したとき、墓地のレベル２以下のモンスター一体を特殊召喚することができる！
出て来い！『ライトロード　ハンターライコウ』！」

『ジャンク・シンクロン』ＡＴＫ１３００　ＤＥＦ５００　ＬＶ３
『ライトロード　ハンターライコウ』ＡＴＫ２００　ＤＥＦ１００　ＬＶ２

「レベル３の『ジャンク・シンクロン』に、レベル２の『ライトロード　ハンターライコウ』をチューニング！」
「おおっ！ついにシンクロ召喚するのか！？」

はいは～い、皆さんお待ちかねのシンクロ召喚ですよ～。

「集いし星が新たな力を呼び起こす。光指す道となれ！シンクロ召喚！出でよ！『ジャンク・ウォーリアー』！」

『ジャンク・ウォーリアー』ＡＴＫ２３００　ＤＥＦ１３００　ＬＶ５

「すっげ～！シンクロ召喚ちょ～かっこいいぜ！」

「感心してるところ悪いが進めるぞ？

『ジャンク・ウォーリアー』の効果発動！このカードがシンクロ召喚に成功した時、このカードの攻撃力は自分フィールド上に表側表示で存在する、レベル２以下のモンスターの攻撃力の合計分アップする！俺のフィールドにはレベル２の『魔轟神獣ケルベラル』がいる！よって『ジャンクウォーリアー』の攻撃力は１０００ポイントアップする！パワー・オブ・フェローズ！」

『ジャンク・ウォーリアー』ＡＴＫ２３００→３３００

「攻撃力３３００だって！？」

だからそんなに驚くほどのものでもないだろ。

そんないちいち驚いてたらきりがなくなるしな。

「バトル！『ジャンク・ウォーリアー』で『Ｅ－ＨＥＲＯ　スパークマン』に攻撃！スクラップ・フィスト！」

「ぐああっ！」

十代：ＬＰ４０００→２３００

「このとき、リバースカードオープン！『ヒーロー・シグナル』！自分フィールド上のモンスターが戦闘によって破壊され、墓地へ送られた時に発動する事ができる。

自分の手札またはデッキから「Ｅ・ＨＥＲＯ」という名のついたレベル４以下のモンスター１体を特殊召喚する！
俺はデッキから、『Ｅ－ＨＥＲＯ　クレイマン』を特殊召喚！」

『Ｅ－ＨＥＲＯクレイマン』ＡＴＫ８００　ＤＥＦ２０００　ＬＶ４

ありゃ、まさかシグナルだとは思わなかった。
サイクロンで破壊したのがバリアだったから、攻撃関連じゃないと思ってたんだけどな…。
ケルベラルで追撃も出来ないな。

「なら、俺はこのままターンエンドだ。」

さあ、十代はどう来るだろうか。

「ようし、いくぜ！俺のターン！ドロー！
よし、俺は手札から『戦士の生還』を発動！
墓地の『Ｅ－ＨＥＲＯ　スパークマン』を手札に加える！
そして、手札から『融合』を発動！
手札の『Ｅ－ＨＥＲＯ　スパークマン』と、フィールドの『Ｅ－ＨＥＲＯ　クレイマン』を融合！
現れろ！『Ｅ－ＨＥＲＯ　サンダー・ジャイアント』」

『Ｅ－ＨＥＲＯ　サンダー・ジャイアント』ＡＴＫ２４００　ＤＥＦ１５００　ＬＶ６

げっ！？よりによってそいつかよ！？

「『Ｅ－ＨＥＲＯ　サンダー・ジャイアント』の効果発動！
自分の手札を１枚捨てる事で、フィールド上に表側表示で存在する、

元々の攻撃力がこのカードの攻撃力よりも低いモンスター1体を選択して破壊する！
俺は手札を一枚捨てて、『ジャンク・ウォーリアー』を選択！
『ジャンク・ウォーリアー』の元々の攻撃力は２３００！
よって、『ジャンク・ウォーリアー』を破壊する！ヴェイパー・スパーク！」

くそっ！思ってたよりあっさり破壊されちまったな。

「バトル！『Ｅ－ＨＥＲＯ　サンダー・ジャイアント』で、『魔轟神獣ケルベラル』に攻撃！ボルティック・サンダー！」
「くっ、やられたな…」

健斗：ＬＰ４０００→２６００

「でも残念。このとき、手札の『トラゴエディア』の効果発動！
自分が戦闘ダメージを受けた時、このカードを手札から特殊召喚する事ができる！
目覚めろ！『トラゴエディア』！
『トラゴエディア』の攻撃力・守備力は手札の枚数×６００ポイントアップする！」

『トラゴエディア』ＡＴＫ？（現在１２００）　ＤＥＦ？（現在１２００）　ＬＶ１０

「何！くっ、今ので手札も使い切っちまった…。
ターンエンドだ。」
「このターンで終わりだな！俺のターン、ドロー！」

ドローしたのはグリムロか。

これならトラゴエディアを活かせられるな。

「俺は手札の、『魔轟神クルス』を召喚！」

『魔轟神クルス』ＡＴＫ１０００　ＤＥＦ８００　ＬＶ２

「俺は、手札の『魔轟神グリムロ』の効果発動！自分フィールド上に「魔轟神」と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合、手札からこのカードを墓地へ送る事で自分のデッキから「魔轟神グリムロ」以外の、「魔轟神」と名のついたモンスター１体を手札に加える事ができる！

俺はデッキから、『魔轟神ソルキウス』を手札に加える！

さらに、フィールドの『トラゴエディア』の効果発動！手札のモンスター１体を墓地へ送る事で、そのモンスターと同じレベルの、相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター１体を選択して、コントロールを得る！

俺は手札のレベル６の『魔轟神ソルキウス』を墓地へ送り、『Ｅ－ＨＥＲＯ　サンダー・ジャイアント』コントロールを得る！

「何！？俺のサンダー・ジャイアントが！？」

「これで止めだ『Ｅ－ＨＥＲＯ　サンダー・ジャイアント』でダイレクトアタック！ボルティック・サンダー！」

「うわあああっ！？」

十代：２３００→０

十代のライフポイントが０になり、俺の勝ちが決まった。

しかし、実際かなり危なかった。

あのタイミングでサンダー・ジャイアントはきつかった。

トラゴエディアを引いてなかったら本気でやばかったと思う。

「くっそー、デュエルアカデミアで最初のデュエルで負けちまったよ。でも、ガッチャ！楽しいデュエルだったぜ！健斗！またやろうな？」
「ああ、またやろう。いいデュエルだったぜ、十代。」
えっ？眠かったくせにそんなこと言うのかって？
いいんだよ、このデュエルが楽しかったことに違いはないんだから。
なんだかんだで、こいつとのデュエルはやっておいてよかったぜ。
なにせ、デュエルアカデミアで最初の友達が出来たんだからな。

よし、これでデュエル終了。
急いで寮に行ってぐっすり寝t…
「兄貴、この後入学式だから、準備しといた方がいいっすよ」
「そうなのか、じゃあこのまま行っちまうか。健斗も一緒に行こうぜ？」
なんだと～っ！？それじゃあ寝る時間が無いじゃないか！？
ちくしょ～～……

眠さのあまり入学式中に立ったまま爆睡していたのは余談だ。

どうやら主人公のようです（後書き）

十代登場の回でした。
こんな感じで大丈夫かな？
かなり不安です。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2214z/

どうやら遊戯王のようです

2011年12月9日01時06分発行